損保ジャパン日本興亜環境財団ニュース Vol.2

発行者／公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1　TEL：03-3349-4614　FAX：03-3348-8140
URL：http://sjnkef.org/　E-mail：office@sjnkef.org

Sompo Japan Nipponkoa Environment Foundation

はじめに

「木を植える人を育てる」がキーワードの「CSOラーニング制度」は、今回のニュースでもご紹介したように今年も約60名の学生が全国合宿で新たなパワーを蓄えました。来年の1月末まで全国のNPO/NGOで活動していきます。次の世代を担う若い彼らには「卒業後もずっと繋がり、何らかの形で環境に関わり続けてほしい」と願って運営をしています。すでに卒業生も900名以上になりました。より発展し継続するためにも、引き続き皆様の厳しく、温かいご支援をよろしくお願いします。

かっぱん田稲刈り（OB・OG交流会 10/2開催）

1. CSOラーニング制度第1回全国合宿を開催

8月31日から9月2日まで、損保ジャパン日本興亜・芦花公園研修所において、CSOラーニング制度の「第1回全国合宿」を開催しました。約8ヵ月間、環境NPO/NGOでのインターンに参加している大学生、大学院生が全国から集まり、課題の発見と目標設定を行い、仲間とのつながりを深める2泊3日となりました。毎日交わされた熱い議論、その中で見えてきたものや考えたことをこれからのインターン活動で形にし、環境問題をはじめとする様々な課題の解決に向けて力を発揮することを期待しています。

派遣先CSOによる講義

二宮理事長も参加したグループ討議

それぞれのインターン活動状況を発表

後半の活動も一層頑張ります!

第1回全国合宿参加者の感想

- 自分が持つ環境への考え方に対して学校などでは議論することがなかったが、このような場のおかげで様々な意見を聞くことができた。大きく視野も考え方も深まり、刺激も受けた。
- 将来について考えること、まだ自分の知らない分野への興味を持つことなど、多くの「きっかけ」を作ってくれる合宿になったと思う。
- 「地区ごとの話し合い」について、テーマが大きすぎてうまくまとめられなかった。事務局側のアシストがほしかった。（→次回への参考とさせていただきます。）

2. 2016年度「学術研究助成」助成金の交付先が決定

「学術研究助成」制度は、環境分野における博士号取得研究の費用の助成を通じ、環境人材育成を支援する制度です。
当財団では選考委員会を開催して、2016年度の「学術研究助成」の助成対象研究者5名を選考。1名あたり30万円の助成金を交付しました。

【2016年度助成先】

氏　名	所　属	研　究
天畠　華織	神戸大学大学院 経済学研究科	気候変動適応策としての水資源ガバナンスに関する研究
中川　唯	東京工業大学大学院 社会理工学研究科	福島原発事故後の日本における原子力リスク・ガバナンス再構築に関する考察
張　明軍	京都大学大学院 農学研究科	農家民宿における外国人利用者の消費行動と受入意識に関する研究
Tyunina Olga	東京大学大学院 新領域創成科学研究科	環境保全型農業の地理的分布と環境保全型農業の導入に対する農家の行動要因分析
井上　博成	京都大学大学院 経済学研究科	日独における地域金融機関の再生可能エネルギーに対する組織的関与

【贈呈式の開催】

9月8日、今年度の受賞者を代表して東京大学大学院のチューニナ・オリガさんを訪問して贈呈式を行ないました。
オリガさんは、サステナビリティ学を研究するロシア出身の留学生。日本の環境保全型農業の普及に向けて、心理学、経済学も活用して全国の農家の行動を分析。農家に対する支援策を研究されています。卒業後は日本とロシアの架け橋となるような研究をしたいと流暢な日本語で語ってくださいました。

贈呈式の様子

オリガさんの研究室

3. 環境保全プロジェクト助成先のNPOを訪問

昨年度実施した「環境保全プロジェクト」助成金の活用状況を確認するため、助成先のNPOと、同法人が取組む「おひさま発電所」の設置先を視察しました。

【助成先「きょうとグリーンファンド」（京都市）の訪問】

2000年の設立以来、主に個人、地元企業からの寄付を集めて、保育園・幼稚園などに太陽光発電設備「おひさま発電所」設置に取り組んでいます。「園児、保護者に環境勉強会を開催して自然エネルギーの活用と省エネの大切さを伝えています。」（大西事務局長）

（活動実績）
- ●市民共同発電所「おひさま発電所」の設置（20箇所）
- ●幼児向け環境学習会の開催（年5回　参加500名）
- ●自然観察会の開催（年5回　参加250名）

保育園の様子（屋根に太陽光パネルを設置）

【「おひさま発電所」訪問】

実際に「おひさま発電所」を設置している陵ヶ岡保育園（京都市）では、発電量ボードで太陽光発電量を見える化したり、定期的にエコ学習会を開催するなど、子供たちの興味を引く工夫がされていました。「おひさま発電所の設置をきっかけに園児や保護者のエコ意識は確実に高まりました（中村園長）」

発電ボード

雨水タンク

太陽光の活用だけでなく地域のリサイクル拠点として、てんぷら油、洋服のリサイクル活動を行ったり、雨水タンクを導入し、水の節約意識の浸透も図られていました。園児から保護者、地域へ環境保全活動の輪が拡大していると感じました。助成先NPOからは、環境財団の助成金は使途の制限が少なくてとても使いやすいとの声もいただきました。　（環境財団　佐藤事務局長）